

拡大マップ1



銚子の伝説

兄の源頼朝に追われて銚子へ逃げのびてきた源義経は愛犬の若丸を連れていました。ところが若丸が呪いにかかってしまい、これ以上一緒に連れて行けなくなり置いていくしかありませんでした。

ひとりぼっちになってしまった若丸は、主君の義経を思つて七日七晩鳴き続けますが、ついに八日目の朝には大きな岩になってしまいました。若丸の鳴く声ははるか遠くまで響きわたり、犬吠埼まで届いたそうです。犬吠埼の名前の由来のひとつとされています(※諸説あり)。また、犬岩のある帯は犬若と呼ばれ現在も地名が残っています。

このほか銚子市内には、義経が千騎の兵と立てこもった千騎ヶ岩(せんがいわ)や馬を休めた馬糞(ばふん)、武器を隠しマムシに守らせたむすびうたん山、古瀬浦(こもつら)、宝満(ほうまん)、矢立ての浜、君ヶ浜、橋のない海上川で竹を曲げて渡ったという笹巻橋(ささまきはし)など義経伝説ゆかりの場所がたくさんあります。

銚子の伝説

昔、猿田彦がこの辺りに榎の苗木を植えるとみるみるうちに枝が空を覆いつくほどの大きさに成長しました。やがてこの榎の巨木に鬼満国(おにみつくに)という鬼の魔王が住みついて、周囲の村人に悪事を働きました。

それを聞いた猿田彦は天の鹿兒弓(かこゆみ)を張り、天の羽々矢(ははや)を魔王のへんめがけて射りました。魔王の体はみるみる風船のように大きくふくらみ、ついに倒れてしまいました。そこで猿田彦が魔王のへんに刺さった矢を引き抜くと、ふくらんでいた魔王の体から空気が抜けてはるかに彼方へ飛んでいってしまいました。

倒れた榎の巨木の跡に水がたまり「榎の海」という湖ができました。その後倒れた榎の根の方を下総(しもつご)と呼び、幹が倒れた方を上総と呼ぶようになりました。榎の海はやがて村人の手によって干拓されて「干潟八万石」という広大な米どころになりました。

銚子ことば

【かっぱがす】=勢いを増す ☆用例【カッパガンテ家さけっぺーど】(急いで家に帰ろうよ) 【ぐすぐす】=とことん 【かっぱる】=船が転覆する、被せる